

♪「うたごえ はまかぜ」ぶらり訪問記・・・♪ *ないとう ひろお・うたごえ教室*

8月9日（土）13：30 開演

新横浜：セントラルビル5F

（新横浜駅下車徒歩4分）

講師：ないとう ひろお（アコーディオン）

参加費：1500円+初めての方歌集代300円

予約制：問い合わせ、予約045-473-8261

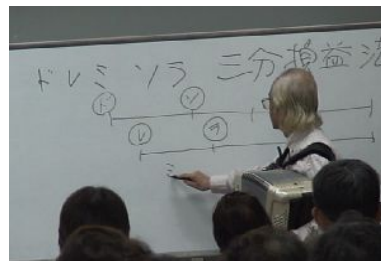
■ないとうひろお氏が講師を務めるうたごえ広場の一つ「うたごえ はまかぜ」に行ってきました。会場は新横浜駅からほど近い、ビルの5階でした。予約制で、70名ほどの年配の常連さんらしき人たちが挨拶を交わしたりおしゃべりしながら始まりを待っていて会場となった会議室は一杯でした。主催者の旅行会社によると、写真撮影の旅、歴史の旅などと同じく「アコーディオン伴奏でうたごえのツアー」を企画して2年になるとのことです。9月にフランス料理の食事後1時間半ほどのうたごえタイムを企画、10月には日帰りのバスツアー、どちらもうたごえ喫茶「ともしび」の司会者、伴奏者が同行するとのお話でした。

～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

■始めての方は講師オリジナルの歌集を購入し、当日用のプリント歌集と合わせてうたごえの始まりです。弟の伴奏、講師は指揮でオープニングは「ふるさと」でした。「皆さん今日は、8月ですからね、例えばぼくらの年代だとどうしても話が戦争にいっちゃうんですね、そういう訳で今日もお話の随所に出てきますがよろしく」と挨拶があり、「今のふるさともね、昭和16年には教科書から消えたんですね」「何故でしょうね、」「いつの日にか帰らん、兵隊さんに行ったら帰ってきちゃいけないんですね」・・・そんな話を交えな



がら、「赤とんぼ」「月の砂漠」「君についてゆこう」と続く。「昴」では横道にそれて、「この歌は黒鍵で全部弾けちゃう」その代表が「蛍のひかり」海は広いな大きいな、ソーラン節、（実際に弾いてみる）。紀元前2500年前ギリシャではピタゴラスが5度の音程（ドとソの音程）の周波数比を2対3であると発見していた。そこでピタゴラスは、「三分損益法」で人類が次に使うのは「ファ」と「シ」の音だろうと予言した。弦の長さを3等分し、一つを捨てる。残りを3等分した1つを最初の3分の2に足すそんな方法で予言が出来た。



中国でも晋の時代にはわかっていた。

■途中15分の休憩を挟み“港”（空も港・・・）、戦争中は朝鮮も日本も同じ本を使って学んだ、朝鮮の人たちは港のような三拍子は嫌いなんですね。朝鮮には“アリラン”のような三拍子のリズムがある。“港”を二通りの歌い方で歌ってみましょう・・・また、イタリア民謡を歌う前に会場の人からイタリア人気質を語ってもらい“海に来たれ”を歌う、実際はもっと速い、“波を越えて”を例に、イチ、ニイ、サンとやってはだめ、1拍子の感じなんですね。そんな話をしながらのうたごえ教室でした。参加者の反応は、うたごえ喫茶のようにリクエストで次々歌うのではなく、話にも満足している様子で、幾人かは次回（10月）の予約をして帰られました。（文：乙津）

